

株式会社 シンワ

DX宣言書

2026年9月29日
株式会社 シンワ
代表取締役 真保 直人

□ 経営理念

技術を磨き、信頼をつくり、ものづくりの未来を支える

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

技術と情報を共有・活用し、社員一人ひとりが力を発揮できる業務体制を整えるとともに、迅速な対応と安定したものづくりでお客様の期待に応え、選ばれ続ける企業を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年3月)

戦略 「業務の可視化と情報共有基盤の構築」

- 施策
- ・ 案件数の増加にも安定して対応できる業務体制を整えるため、受注から製造・検査・納品までの業務フローを整理し、標準的な進め方を明確化
 - ・ 担当者に依存しない業務体制づくりに向けて、属人化している業務を洗い出し、作業手順と判断基準を標準化するとともに、業務上のノウハウを記録・蓄積
 - ・ 安全なデジタル活用に向けて、情報セキュリティやデータ管理に関する基本ルールを整備するとともに社員への周知・研修を実施

➤ フェーズ2(2027年4月 ～ 2028年9月)

戦略 「案件管理と生産管理の仕組み化」

- 施策
- ・ 案件増加時にも確実に進捗を管理できるよう、フェーズ1で整理した業務フローに適合する案件・生産管理の仕組みを整備
 - ・ 見積情報を後工程で有効活用するため、見積情報を発注・製造指示へ効率的に展開できる仕組みを整備
 - ・ 仕掛品の状況や工程進捗を把握するため、工程間の受け渡し情報を記録・共有する仕組みを整備
 - ・ 発注漏れや納期遅延を防ぐため、外注手配・入荷・検査までのステータス管理を一元化
 - ・ 情報検索や伝達を効率化するため、図面以外の帳票を対象にペーパーレス化を段階的に推進

➤ フェーズ3(2028年10月 ～ 2029年9月)

戦略 「データ活用による収益力の向上と意思決定の迅速化」

- 施策
- ・ 担当者に依存しない業務体制を定着させるため、標準化した手順や蓄積したノウハウを教育に活用し、実務を通じた多能工化を推進
 - ・ 在庫負担を抑えながら必要な材料を確保するため、案件・材料・仕掛品の状況を把握し、購買判断に活用
 - ・ 利益を定期的に把握するため、仕掛品・材料在庫を含む原価データを入力・集計できる環境を整備し、四半期ごとの業績確認を実施
 - ・ 迅速な経営判断につなげるため、蓄積した売上・原価・仕掛品に関するデータを可視化し、定期的に分析する運用を定着
 - ・ 過去案件を次の受注判断に活かすため、過去の見積・実績データを検索・比較できる環境を整備
 - ・ 社員の気づきを業務改善につなげるため、定期的な意見交換を通じた改善活動を推進

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略の実行において中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 主要業務のマニュアル整備率 : 100%(～2028年9月)
- ・ 紙の使用量削減 : 2026年度比 30%削減(～2029年9月)